

東洋埠頭のDXの取り組み

目次

(1)DXの位置づけ

(2)現状の課題

(3)目指すべき姿

(4)目指すべき姿の実現に向けたDX戦略

(5)戦略達成に向けた戦術

(6)DX推進体制・環境整備

(7)DX推進指標

(1)DXの位置づけ

デジタルイノベーションで未来を切り拓く



経営目標を達成

長期ビジョン：100周年に東洋埠頭があるべき姿



得意な事業を伸ばして独自性を発揮する



既存事業継続、国際物流拡大、新基幹事業稼働、積極的な事業投資により持続的に発展し続ける



働きやすい職場環境（施設・体制・働き方改革）を確立している



社会全体のサステナビリティ確保に貢献している



グループ売上高500億円を達成している

(2)現状の課題

急速に進むデジタル化と物流効率化の流れ

内部環境

- ・従業員のデジタルリテラシー向上の必要性
- ・レガシー化した既存システム
- ・熟練者の減少と知識共有の重要性
- ・業務プロセス最適化の余地

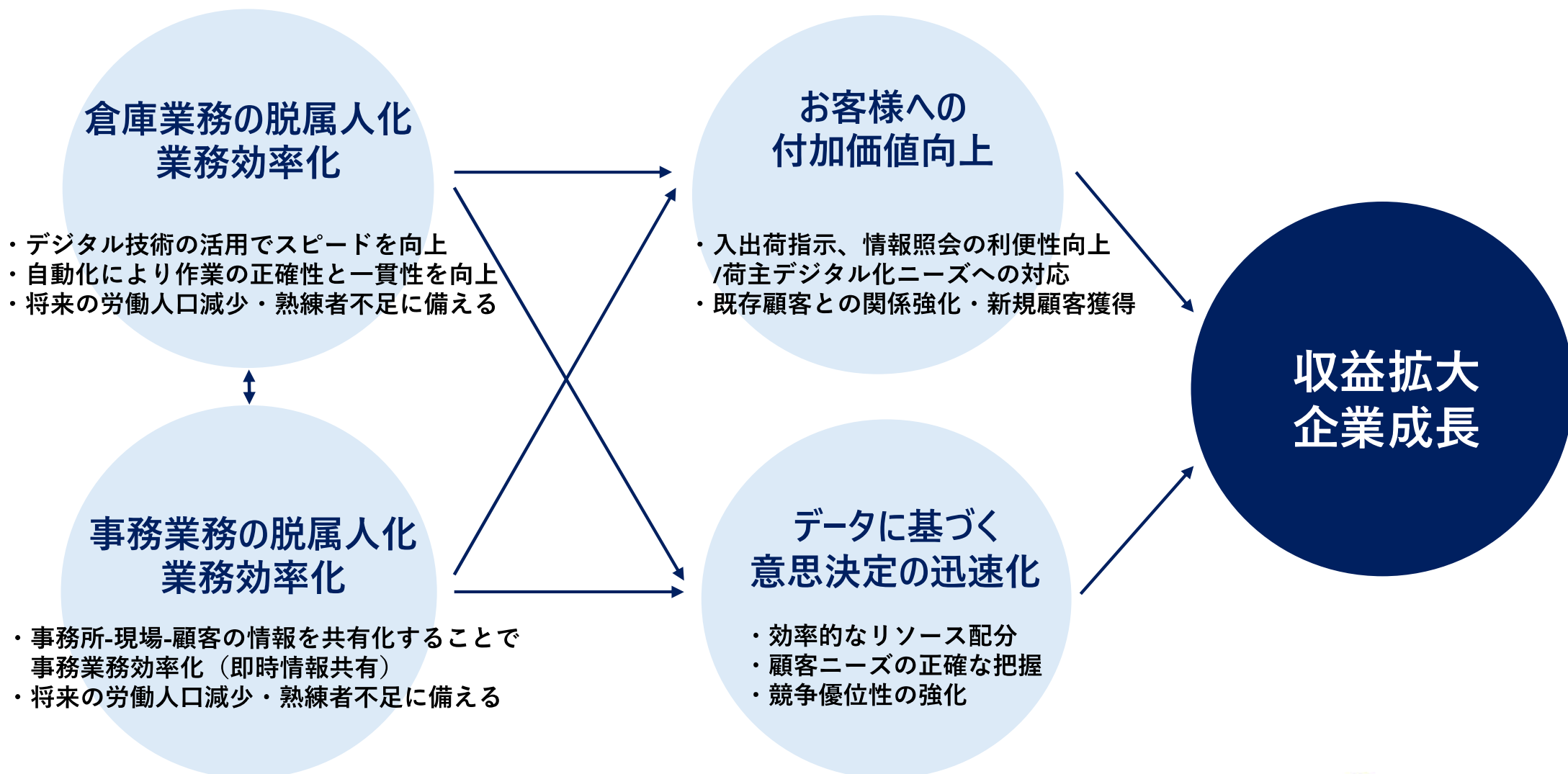
外部環境

- ・物流関連二法による物流効率化の促進
- ・顧客ニーズの多様化（リモート・デジタル化）
- ・人材の獲得競争の激化
- ・新技術への適応（AI/IoT/自動運転など）

▶▶ 変化するビジネス環境に対応すべく、
デジタル技術の活用と人材の高度化を推進し、事業基盤を強化

(3)目指すべき姿

デジタル化と自動化で付加価値向上を図り、
効率的な経営資源の循環により事業規模拡大を目指す。



(4)目指すべき姿の実現に向けたDX戦略

3段階のStepでDXを実現



(5) 戦略達成に向けた戦術

1. 基幹システムの刷新（在庫管理システム）
2. オペレーションの統一とデジタル化
3. デジタル人材の育成・デジタルリテラシーの向上
4. 最新ロボット、AI技術などの検証・導入

(5) 戦略達成に向けた戦術



1. 基幹システムの刷新（在庫管理システム）

目的

- ・ デジタル化社会に対応した基幹システムへと刷新
- ・ 収益拡大、事業発展の基礎となる仕組み構築
- ・ ステークホルダーに対し、効果的で利便性の高いシステム提供

達成方法

システム選定

- ・ 他システムとのデータ連携を考慮したシステム選定
- ・ 多様な荷主・貨物に対応できる柔軟な仕組みを選定

業務プロセス改革

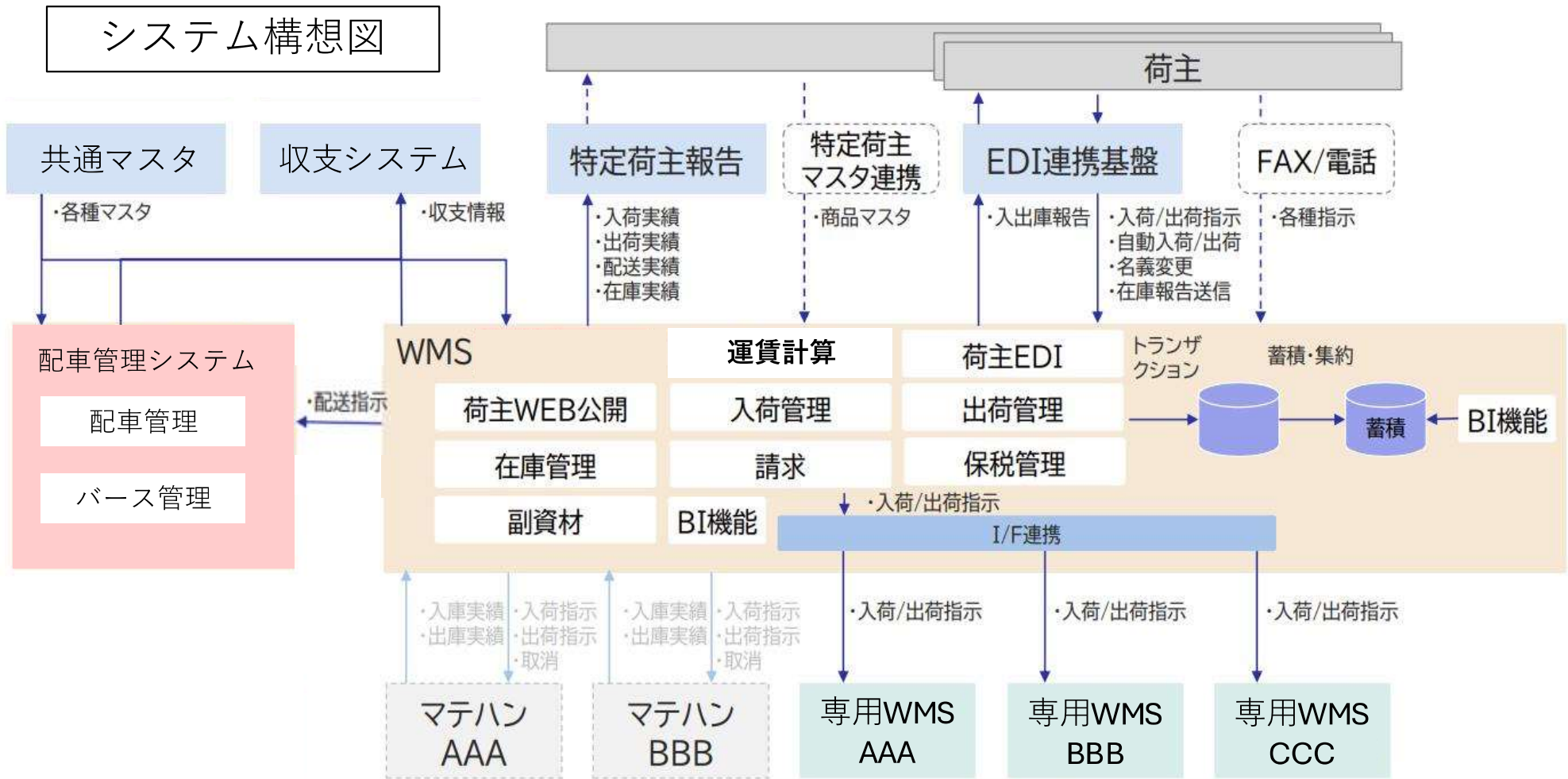
- ・ 現場精通メンバーによるプロセス改善
- ・ マテハン機器導入による効率化

(5) 戦略達成に向けた戦術



1. 基幹システムの刷新（在庫管理システム）

システム構想図



(5) 戦略達成に向けた戦術



2. オペレーションの統一とデジタル化

目的

- ・ デジタル化による業務プロセスの効率化と生産性向上
- ・ 業務の均質化と、安定した成果を出せる体制づくり
- ・ データ分析による業務・サービス改善

達成方法

業務のデジタル化

- ・ 業務プロセスの見直しとシステム化
- ・ モバイルデバイスやクラウドの活用

業務の標準化

- ・ 手順書/マニュアルの電子化
- ・ ベストプラクティスのデータベース化とナレッジ共有

データ収集と分析

- ・ データ収集インフラの構築
- ・ データ分析ツールの導入
- ・ KPIの設定と継続的なモニタリング

(5) 戦略達成に向けた戦術

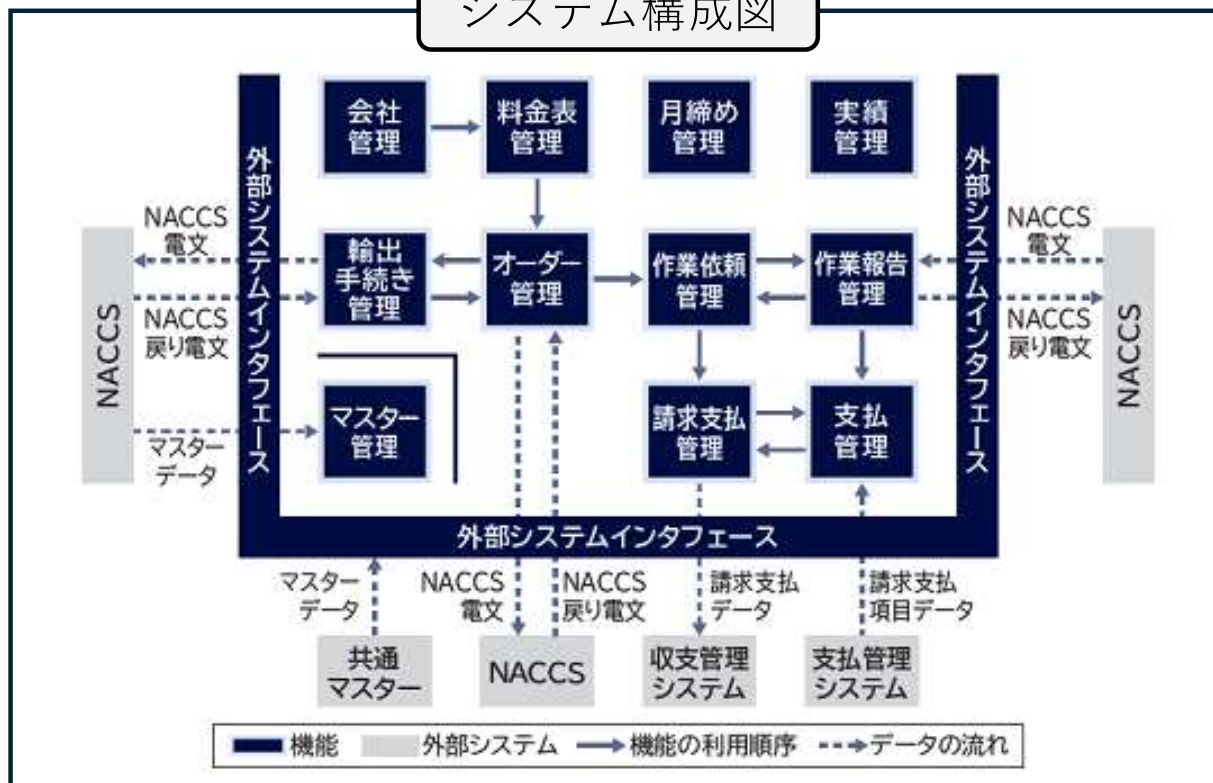


2. オペレーションの統一とデジタル化

▼導入事例紹介（一部抜粋）

海貨ワークフローシステム（全社共通）：海上貨物の案件管理から収支計上までを一元管理

システム構成図



導入効果

- セクター間の依頼報告を効率化
- 情報伝達スピードの向上
- 情報の一元管理・可視化
- リモートでの情報確認・編集
- データ連携による手入力削減
- 収支システム連携で二重入力廃止

(5) 戦略達成に向けた戦術



3. デジタル人材の育成・デジタルリテラシーの向上

目的

- ・ 組織全体のデジタル活用能力を強化し、生産性を向上
- ・ セキュリティリテラシーの向上とリスク対処能力の習得
- ・ デジタル時代における組織力の強化

達成方法

情報セキュリティ教育強化

- ・ 定期的な研修の実施と効果測定
- ・ 最新の脅威とリスクに関する継続的な啓発活動

デジタル推進体制の確立

- ・ デジタル推進部の発足

導入システムの活用支援

- ・ フォローアップによる活用促進
- ・ FAQ/ナレッジベース構築

デジタルリテラシー向上の取り組み

- ・ 社内メディアでのデジタルツール紹介
- ・ 最新デジタル技術に関する定期的な情報発信

(5) 戦略達成に向けた戦術



3. デジタル人材の育成・デジタルリテラシーの向上

▼デジタルリテラシー向上の取り組み事例紹介（一部抜粋）

社内イントラネットにRPA（Robotic Process Automation）の概要・使い方を掲載

Power Automate Desktopページ

何百回もの入力やコピーはもう不要です。
皆さんのPCで、ロボットが代わりにやります。

Power Automate Desktopの基本

概要

ダウンロード&インストールしよう

やってみよう (PDF結合)

(5) 戦略達成に向けた戦術



4. 最新ロボット、AI技術などの検証・導入

目的

- ・ ロボティクス・AI技術の活用による物流の高度化
- ・ 人材リソースの戦略的再配置と成長分野への投資
- ・ 新しいビジネスモデルの創出と顧客サービスの向上

達成方法

最新技術の情報収集

- ・ 展示会や情報交換会への参加
- ・ テクノロジベンダーと定期的な情報交換

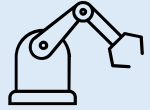
実証実験の実施

- ・ PoC環境活用による積極的なトライアルの実施

導入検討

- ・ 実験結果の詳細な分析
- ・ 導入コストと期待される効果の定量評価

(5) 戦略達成に向けた戦術



4. 最新ロボット、AI技術などの検証・導入

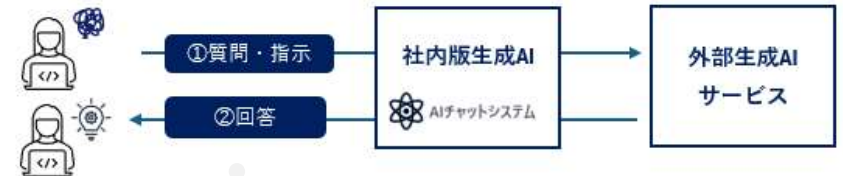
▼導入事例紹介（一部抜粋）

・東扇島支店 船橋DXセンター営業所を開設



- ・ 先進的な保管システムによる空間効率の最大化（自動倉庫型ピッキングシステム、台車式流動棚など）
- ・ 人的ミスの削減と処理速度の向上
- ・ 当社デジタルトランスフォーメーションの基点として機能

・社内版生成AIシステム開発・導入



・大阪支店に全国最大規模の危険物立体自動倉庫を建設



- ・ 危険物の保管需要拡大に対応
- ・ 作業と保管効率の向上
- ・ 庫内自動搬送による省人化
- ・ 危険作業からの脱人化

- ・ 情報漏洩のリスク低減（社内版生成AIシステムを利用し、AIに情報を再学習させないように制御）
- ・ 創造性補助、作業補助により生産性を向上

(6)DX推進体制・環境整備

組織変更

デジタル戦略及びシステム開発を強化するため、デジタル推進部を新設

2023年3月まで	2023年4月以降	管轄
情報システム部	情報管理部	システム管理、統制、 インフラ、情報セキュリティ
	デジタル推進部	デジタル戦略、新システム導入 デジタル技術活用

DX推進体制

プロジェクト毎に委員会を設置



全社横断的な参画

デジタル推進部からだけでなく、
全国支店から現場業務に精通した次世代を担うメンバーが参画



業務プロセス最適化

システム刷新・導入時に並行して実施し、技術導入と業務改善の相乗効果を追求



デジタル人材の育成

プロジェクト参画を通じ、デジタルリテラシーの向上

(7)DX推進指標

中期DX推進指標

DX推進活動を通じ、長期ビジョンの実現を支援する



短期DX推進指標

最新デジタル技術導入

最新技術のトライアル
実施件数年間10件

基幹システムの刷新

全社リリース・移行完了
2026年12月

データ活用・分析

データ分析による
業務改善提案件数
四半期ごとに10件

